

薪炭利用を進めるための課題とその解決方法

		課題	解決方法	解決事例
生産	ハード	原木の確保が困難	・資源情報の収集と提供 ・仲介者による斡旋・地縁・血縁 森林組合等の専門業者へ	
		原木の収集・運搬が困難	・トラックに積載するための機器の整備(ユニック、グラップル) ・薪炭生産の現場(炭窯)を移動させていく。	
		炭焼き窯の減少、活用機会の減少	・窯の建設への補助 ・希望者への(中古)炭窯のレンタル、斡旋	・愛知県美浜町
		薪の生産量が少ない	・ユーザーが自分で楽しみながら生産する。 ・コミュニティビジネスとして、薪を生産・販売する。	・薪ネット(福島県、京都府)
	ソフト	薪炭生産者の減少	・炭焼き教室の開催(特に若者、もしくは実際に使う料理人等に経験をしてもらう) ・グループ化、生産組合化 ・プロの炭焼きをボランティアが一部手伝う。	・「えがお・つなげて」の山梨での、パティシエを対象としたベリーの栽培体験。 ・身延竹炭生産組合(山梨県) ・愛知県美浜町 ・生活学校(小田原)
	安定的に高品質の炭を生産する難しさ	・地域での品評会の実施 ・生産者の明記等による、「顔の見える仕組み」作り。		
流通	ソフト	問屋の弱体化	・問屋と直販ルートの共存 問屋による集出荷の維持(当面)と直販店での品揃えの充実 ・JAや生協などとの連携 コミュニティビジネスの提案。イオングループなど環境意識の高い企業を巻き込むことも	
		品質保証機能の欠如	・品質の明確化:産地表示も含めたラベリング(効果の検証も必要) ・地域での品評会の実施	・木質ペレット自主規格策定(ペレットクラブ)
		環境保全機能の保障の欠如	・NPO等によるお墨付きラベリング	・植林針葉樹産地認証協議会(CCDP)
		販売戦略の欠如	・グリーンツーリズムやクラインガルテンと組み合わせる。 ・関係性(個別消費者の中への物語づくり)をつくる(媒体は?)。	・「炭焼き100選」による情報発信(矢作川)。 ・バイオマス絵巻(京都) ・農産物分野での事例多数?
		薪の入手先が分かりにくい	・インターネットによる販売	・石谷林業株式会社原木市場など
消費	ハード	現代の住宅では薪炭を使うことの困難	・地域ビルダーや工務店との提携による工法の開発。	・オール炭化住宅?
		薪炭利用機器の使い勝手の悪さ	・使いやすい機器の開発(着火の容易性、空気を汚さないなど)。 ・デザイン性を高める。	・下川町森林組合「ふるさとコンロ」(北海道) ・スワン製炭のコンロ(販売中止?) ・火鉢コンテストの実施(広若委員アイデア) ・NACSJのポケットカイロ(松村委員紹介)
		コアユーザー(リピーター)の不足	・顧客の掘り起こし:薪く炭くKYOTOや森づくりフォーラムなどの会員ネットワークを活用?	・里山倶楽部(大阪府)
	ソフト	どういった場面で薪炭利用が可能かが、よく理解されていない。	・用途ごとにブックレットで紹介。行動宣言に場面ごとの用途を盛り込む。 ・ライフスタイルフォーラム等との連携。	・チームマイナス6% ・我が家の環境大臣 ・「スローフード・バイブル」(確認中)
		生産された薪炭が有効に使われていない。	・地域通貨等で、市民が生産する薪炭が、小規模流通の仕組みを作る。	・里山倶楽部(大阪府)
		「薪炭の良さ」の体験機会が少ない。	・体験の場を増やす。	・バイオマス絵巻(薪く炭くKYOTO)による情報提供
		炭を見る目が養われていない。	・各種ワークショップを開催していく。	・市民レポーター養成講座(矢作川流域) ・薪炭クッキング講座(全燃協)